

成果検証報告書

【成果指標の達成状況】

成果検証実施年度 令和2年度

市町村名	蕨市					
提案事業名	日本語指導を活用した外国人にやさしいまちづくり推進事業					
事業期間	平成30年度 ～ 平成30年度					
成果指標	(成果を検証する指標) 教育センターでの学習期間の目安(3か月)内に指導が完了する児童・生徒の割合					
	(成果検証の具体的な方法) 年度末時点で、3か月以内に指導を完了し、教育センターでの学習を修了した児童・生徒の割合を算出する					
	(成果の目標値に対する実績)			達成度	C	
	従前値 (30年3月時点)	91%	目標値 (31年3月時点)	95%	実績値 (31年3月時点)	89%
	(施設建設等の場合の実績)					
	年間利用者数 (人)	(目標) (実績)	稼働率 (%)	(目標) (実績)		
住民への公表状況 及び特記事項						

【事業効果の整理・原因分析】

平成30年度 構成事業

構成事業名	事業効果	事業効果の概要及び原因分析
① 教育センターの移転による日本語指導充実プログラム	○	指導スペースや学習時間を確保することで、外国人児童・生徒のそれぞれの日本語習得レベルに合わせた効果的な指導を行うことができた。
②	○ △ ×	
③	○ △ ×	
④	○ △ ×	
⑤	○ △ ×	
⑥	○ △ ×	

【成果検証の総括・改善策の検討】

実施事業について 十分に成果が認められた点	学習スペースや学習時間の制約がなくなったことにより、外国人児童・生徒のそれぞれの日本語習得レベルに合わせたきめ細かな指導を行うことができ、一定の学習効果の向上を図ることができた。また、日本の文化や学校生活におけるルールなどを学ぶことで、外国人児童・生徒の円滑な学校生活への移行にもつながった。
実施事業について 成果が不十分である点	学習環境や学習内容の充実が図られたが、日本語による会話等に困難を抱える外国人児童・生徒が増加していることや、個々の家庭環境等により継続して教室に通うことが困難であることなどから、指導完了までに時間を要するケースがあり、更なる支援が求められている。
成果検証を踏まえた 今後の改善策	今後も日本語指導を必要とする外国人児童・生徒の増加が見込まれることから、日本語指導に携わる指導員の増員や指導力の向上をはじめ、受け入れや相談支援体制の強化、ICT環境の整備を進めるなど、更なる学習環境と学習内容の充実を図っていく。

(記入上の注意)

【成果指標の達成状況】

・達成度(A・B・C)の判断基準は次のとおりとする。

「達成度A」 目標値に対する実績値の伸び率が80%以上の場合
実績値 \geq (目標値-従前値) \times 80%+従前値

「達成度B」 目標値に対する実績値の伸び率が60%以上80%未満の場合
(目標値-従前値) \times 60%+従前値 \leq 実績値 $<$ (目標値-従前値) \times 80%+従前値

「達成度C」 目標値に対する実績値の伸び率が60%未満の場合
実績値 $<$ (目標値-従前値) \times 60%+従前値

【事業効果の整理・原因分析】

・事業効果(O・△・×)の判断基準は次のとおりとする。

「事業効果O」 事業効果の発現が十分に認められる

「事業効果△」 事業効果の発現が多少認められるが、不十分な点がある

「事業効果×」 事業効果の発現がほとんど認められない